

偶然の出会いを大切に、  
親子で楽しめる空間を創っていききたい



足踏みオルガンと共に、日本全国を駆け巡るボイスパフォーマーの中ムラサトコさん。3児の母でもある中ムラさん、なんでも、寿町の雰囲気に興味を持ち、以前住んでいた鎌倉から横浜へ引っ越してきたとか。音楽活動の他に、横浜でコミュニティカフェや子育てワークショップを行う、そんな中ムラさんを直撃しました。

## ◆子育てワークショップ “子育ては爆発だ”

港の見える丘公園の脇に位置する、レンガ造りの“岩崎ミュージアム（ゲーテ座記念）”。服飾とアートの博物館となっているこの建物が、中ムラさんが子育てワークショップを行っている場所。

去る2006年、ウォールペイントで有名なロコサトシさんとの仕事がきっかけで、ゲーテ座と、その館長さんと出会いました。面白いことをやる人が大好きな館長の心意気から、月1回の子育てワークショップ“子育ては爆発だ！”が始まることに。

「子どもは初めての場所に行くとは怖がり、普段ののびのびとした振る舞いをとることができなくなることが多いんです。“場所見知り”みたいな状況を取り除くためにも、定期的なワークショップを行うことで環境に慣れてもらい、安心してのびのびと楽しめる空間をつくっています。」

## ◆子どももお母さんも楽しめるワークショップを目指して

よくある子どものワークショップは、お母さんが子どものために連れて行って、子どもだけが楽しいものが多く、子どもは子ども同士、お母さんはお母さん同士の状況になってしまう。

「子どもはお母さんと一緒に何かをやるのが大好きなの！」

そこで中ムラさんは、持ち前の声音と鍵盤を使って、音や手振りなど言葉を使わず感覚的に楽しめるものを題材にすることで、親子一緒に楽しめるワークショップを考案。

「ワークショップを通して、親と子の関わり方を、もう一歩進んだところに持っていきたいんです。」

参加しているお母さんたちも、初めは、“子どものために”と思って参加する人が多いが、ワークショップを終えたとお母さんたちも“楽しかった”とこぼし、次の回にも参加してくれるのだとか。もう既に一歩進んだ関係性を創っているのかもしれないですね。

## ◆贅沢な空間と時間が創造性を育む

いろいろなところで子どものワークショップは行われていますが、素っ気ない建物の中でやっていたり、託児所などで行われているものがほとんど。

「子どもたちが初めて出会う空間が、そんな味気ない空間では創造性も何もない。贅沢な空間を体験する機会をもっと創ってこそ、子どもたちの創造性が豊かに育っていくんだと思います。」

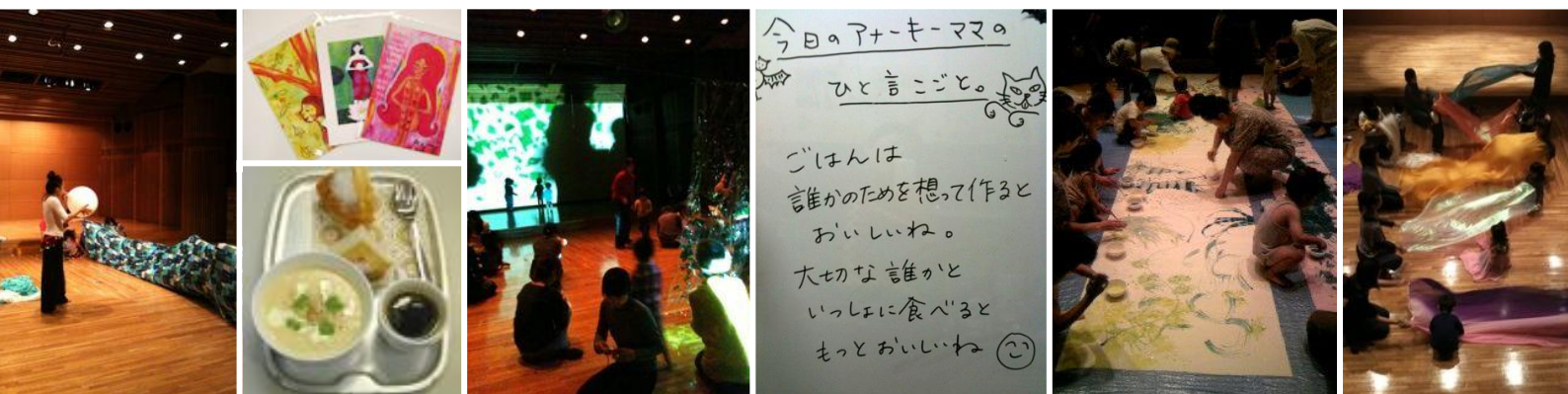
一方で横浜には、良いホールが沢山あるが、子どものために開放されているものはほとんどないそう。

「そんな中、ゲーテ座は、舞台ステージに、高い天井、高価な照明器具や設備が揃っていて、贅沢な空間で贅沢な時間を贅沢と思わない環境で過ごせるのが、とても嬉しいです。」

## ◆ヨコハマホステルヴィレッジとの出会い

中ムラさんが週一回、フロントでカフェを開いているヨコハマホステルヴィレッジは、横浜市中区の寿町で簡易宿泊所の空き部屋を使って旅行者に格安の宿を提供しているホステル。ここで働いていたアーティストの友人を介して、寿町を訪れることに。寿町は怖い地域だと聞いていたが、実際に訪れてみるとお年寄りが多く、何か温かい感じがしたという。

「子どもが三人いて、子育てをしながら仕事をするのはなかなか大変。いつも誰かに支えてもらえることが必要だと感じています。昔は、近所のおばちゃんが預かってくれたりしたけど、今はほとんどない。昔は当たり前だったことを、今の都会ではなかなか創ることができない。そんなことを考えていた頃、ちょうどこの街と出会ったんです。寿では、地域の人に支えてもらいながら子育てができるのでは、そんな環境がある気がしたんです。」





ホステルのメンバーとも意気投合し、フロントで週一回のカフェを行うことに。

「例えば、仕事で帰りが遅くなってしまったときに、保育園に子どもをホステルのスタッフが替わりに迎えに行ってくれるとか、横浜に帰ってくるまでフロントで預かってくれていたり、ここが自分にとって理想的な場所だと気づいたんです。街のおじさんたちもカフェに来てくれて、子どもたちを孫のようにかわいがってくれたりするので、子どもたちが育っていくのに、とても良い環境だと思います。」

カフェは、バーレスクダンサーや和裁師など個性あふれる女性たちと一緒に、こことゲーテ座を交代制で行っているとのこと。

「儲からないのが前提ですけど、ここでみんなで楽しく続けていけるといいですね。」

## ◆日々当たり前のことを長く続けていきたい

自然体でそんな風に話してくれた中ムラさんも、20代は野心が沢山あり、音楽で売りたい気持ちも大きかったとか。ただ、子どもも産み、離婚もし、段々生活がリアルになっていくにつれて、必要なのがそこではないのではと気づき始めたそうです。

「もっと大きな枠の中で自分の役割があるのではないかと考えるようになりました。長く続けられることは、日々淡々とやってくることの中にあるのかなって。日々、当たり前のことになっていくことが、長く続けられることになるんだと思います。」

## ◆カフェで、歌で、笑顔を——

最後に、これからやってみたいことを伺ってみたところこんな風に話してくれました。

「カフェに毎回来てくれている人の木版画ポートレートを創りたいんです。その人の一番好きな歌を歌うことで喜んでくれたらいいなと思っています。食べること、音楽をすることを同じひとつの空間でやっていきたいですね。」

石川町・山手の近くに寄った際は、いつも笑顔の中ムラサトコさんに元気をもらいに、スープランチでも食べに行っはいかげしょうか。

